

衣食住遊

第一回

大阪は建築ミュージアム

街にたくさんある建築物は、実はアートなのです。しかも、外観だけならタダで見ることが出来ます。大作から小品までサイズもいろいろ。抽象画のようにクールなものも、味わいのある素材や形で具体的に迫ってくるものもあります。時代の流行もあるので、いくつ眺めてみるうちに、どれが古そうで新しそうかも、何となく掴めてくるはず。建築物を使うものではなく、見る対象だと頭を切り換えるだけで、街の中にさまざまな「アート」が出現します。

しかも、これらは個々バラバラでもありません。歩き回っているうちに、何か古そうな建物がこの界隈に多いとか、高い建物で頭が揃っているなど、多くのことに気づくに違いありません。

先ほど「使うものではなく、見る対象だと頭を切り換える」と書きましたが、そうは言っても、建築物は使う必要から生まれてい

ます。ですから、本社を構えるべき市街には重厚な建物があ

あり、消費の場所では店舗がデザインを競い、それは川や堀が通ったり、駅の近くだったりといった地理と関係

します。個々バラバラではなく、場所ごとに建物の傾向

があって、エリアの歴史が読み取れます。建築物という

アートは集まって、エリアというコレクションをなして

いるのです。それが集まって、街という大きなミュージ

アムができています。

1922

Daimaru
Osaka
Shinsaibashi

アートの鑑賞が画家の名前のお勉強ではないように、建築物の鑑賞も設計者の名称や建てられた年代を確認することとは違います。それらを知っているほうが発見が多いのは確かですが、一番大事なのは、自由に楽しんで、自分なりの名品を決めること。さらに、言葉を交わすことだと、私は思います。

大阪は、東京以上の「建築ミュージアム」です。試みに江戸時代から城下町として栄え、多くの商人が行き交った船場を歩いてみましょう。折り目正しい外観だけでも最高級の仕立てが明らかかな「綿業会館」、まるで中南米産のコーヒーのように濃厚で癖になる味わいの「芝川ビル」、精巧な装飾とポップな時計塔が街に変わらない安心感を与える「生駒ビルヂング」……重厚で個性的な建築物が、現在もそこかしこで使われています。御堂筋に出れば、消費大国アメリカの豪華さを持ち込んだような「大丸心齋橋店本館」や、当時最先端のデザインが今も新鮮な「大阪ガスビル」が目

大阪ガスビル



1933

Osaka
Gas
Building

建築物は、実はアートなのです。しかも、外観だけならタダで見ることが出来ます。

飛び込んできて、戦前に道路を幅44mにまで広げ、地下鉄を開通させた大阪の進取性は一目瞭然です。

今度の休日には、街中に出かけてみませんか？ 街は

建築ミュージアム、そう考えれば、平日とは別の大阪が見えてくるはず。いつか一緒に歩いて、語り合える日を楽しみにしています。

Kurakata Shunsuke

文 倉方 俊輔

くらかた・しゅんすけ
／大阪市立大学大学院工学研究科准教授、建築史家。

1971年東京都生まれ。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院理工学研究科博士課程満期退学。伊東忠太の研究で博士号取得。『東京建築みる・あるく・かたる』（甲斐みのりと共著）、「ドコノモン」、「吉阪隆正とル・コルビュゼ」など著書多数。中之島デザインミュージアム「The Urban de V」で「倉方塾」を主宰。